

令和6年7月17日

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

鳥取県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鳥取市立青谷中学校	鳥取市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
鳥取市立青谷中学校	https://sites.google.com/g.torikyo.ed.jp/aoya-jhp/%E6%8E%A2%E7%A9%B6%E3%81%82%E3%81%8A%E3%82%84

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
鳥取市立青谷中学校	https://sites.google.com/g.torikyo.ed.jp/aoya-jhp/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E6%95%99%E8%82%B2%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6/%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E8%A9%95%E4%BE%A1	

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

・計画通り実施できている ・一部、計画通り実施できていない ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

・実施している ・実施していない
--

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

特別の教育課程「探究あおや」では、「ふるさと青谷の自然、文化、歴史について、様々な人とのつながりの中で探究的に学ぶことを通して、ふるさとを思う心や課題を解決し未来を切り拓く力を養い、主体的に自己の生き方を考える生徒を育成する」という目標を掲げ、特別に教育課程を編成して実施した。

3年は「海」、2年は「紙」、1年は「大地」のテーマを設け、サーフィン体験、青谷かみじち遺跡や青谷の伝統産業である和紙に関わる体験活動を行って、ふるさと青谷のすばらしさや魅力を学ぶ機会を設け、その上で、これらの活動を探究的な学びへと結びつけた学習活動を行った。

また、探究的な学習活動のまとめとして、3年生ではふるさと青谷の魅力を紹介する動画作成、1、2年生では探究的な学習をまとめた冊子づくりなど、青谷の魅力を伝える発信に力を入れて実施した。

学校評価アンケート等を実施し、以下の結果となった。

- ・将来の夢や希望を持っている（肯定的回答 68.2%）
- ・今住んでいる地域の行事に参加している（肯定的回答 71.8%）
- ・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある（肯定的回答 48.2%）
- ・「探究あおや」の授業は楽しい（肯定的回答 81.2%）
- ・「探究あおや」では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる（肯定的回答 80.0%）

これらのアンケートの結果から、ふるさと青谷を思う心が育ち、主体的に課題の解決に向けて動こうとする姿勢が育ちつつあることが伺える。

今後の課題として、各学年で実施する体験的な活動をさらに探究的な学習過程に位置付けていくことや地域にくらす達人へのインタビューなどの地域資源の活用をさらに進め、探究的な活動を充実させていくことがあげられる。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

学校教育目標は「少数精鋭～自らの未来を切り拓く青谷町教育の推進～」であり、取り組みの3本柱として、①学力の向上、②「探究あおや」の推進、③社会的自立のために必要な社会性の定着を掲げた。そのうち、①「学力の向上」と②「探究あおやの推進」は往還する関係であり、「探究あおや」の取り組みを充実させていくことが学力向上につながると考えた。

学力向上に関しては、全国学力学習状況調査等の結果から学力の向上が認められる。これは各教科担当者による指導の賜物ではある。しかし、教科学習の取り組みと探究あおやの取り組みの関連ははっきりせず、それぞれの取り組みを個別に取り組んできたという反省があった。

5. 課題の改善のための取組の方向性

課題改善の方向性として大きく2つのことに取り組むことが必要であると考えられる。1つ目は、「探究あおや」をより探究的な学習過程になるように再編成していくこと、2つ目として、探究あおやと学力向上との往還をより明確にし、「探究あおや」の充実を学力向上につなげていくことである。

まず、探究的な学習過程では、①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現を意図して取り組むことが重要であると言われる。各学年で取り組むサーフィンなどの体験活動や地元の各分野の名人へのインタビューなどの活動を「①課題の設定」につなげるために、体験活動の実施時期の工夫や単元構成の再構築などを行い、より探究的な学習過程になるような工夫を実施していきたい。

また、「探究あおや」と学力向上との往還については、各教科の指導者が探究スキルを意識化して授業をする必要がある。そのために、探究スキルを明確にした授業実践をしている県内先進校の講師を招き、各授業で探究スキルを育むことに関する職員研修を実施した上で、探究スキルを明確化した研究授業や授業研究会を実施したい。各教科の指導が探究あおやの取り組みにつながるという意識を指導者側が持つことにより、「探究あおや」と学力向上との往還を明確にすることにより、探究あおやの指導に対する意欲の向上にもつなげたい。